

供覧

閣下御覧

内閣書記官



新聞発表号外

五月九日

陸軍省新聞班

南方支那に於ける共產軍の情況

満洲事変に次いで上海事件の勃発となるや國民政府は対外的に忙殺されて討伐の暇がなく又從來討伐に従つてゐた軍隊の一半も上海方面に増援せしめた為共匪は此の機に乗じて積極的活躍を始め江西福建湖北湖南の各省共靜和の目なく官憲は之が対策に手を焼いてゐるこの共產軍の猖獗は南支方面に利権を有する諸外國にとつて実に由々しき大事である蓋し赤旗一度翻り勞農悉く鳴となり梟となるに於ては各國の経済的施設の如きたちまちにして根底より顛覆されて了ふからである上海に於ける停戰協定成立後に於て南支方面の情勢上特に注目すべきものはこの共產党の活動と中央派對廣東派の抗

争であつて何れも該地方の大動乱を予想されてゐるものである

以下諸情報を綜合して同方面の共產軍の概況を述べる

一 江西省及福建省方面

江西省は元來共產軍第一軍団（主席朱德、政治主任毛沢東）第三軍団（主席彭德懷、政治主任黃公略）の活躍する地盤である。第一軍団の主力は江西東南省境附近に一部、方志敏の第十六軍は東北省境附近に蟠踞し福建省境を窺つてゐたが主力軍は汀州南方地区に在つた孫連仲麾下の季振國及趙博生の部隊と合作して四月中旬より龍巖に向ひ攻勢を取り張貞の指揮する福建第四十九師の一部を撃破して遂に十四日龍巖を占領し續いて同師楊逢年旅の集中しある適中に進迫した張貞は漳州に於て自動車を徵發

し通中に向ひ増援部隊を送つたが利あらず部下約二旅を失ひて水潮南靖間の地区に退却するに至つた。勝に乘じて共産軍は十八日龍山南靖を攻陥し十九日更に漳州に迫つた張貞軍は部下吳賜等の反逆により内部的に分乱し漳浦詔安廈門に退き共産軍は確實に同地を占領して直ちに「ソビエト」政府を樹立した。尔後共産党的の諸工作を行ひつゝあるが例の本性を發揮し掠奪放火強姦暴行を盛んに行ひつゝある

福建省政府は中央に対し増援を請求し南京政府は泉州及順昌にある部隊に應援を命じてゐる。

廣東軍は共同討伐の要求を受けただけれど敢て動かず主力を以て潮州及興寧附近の地区に集結して省境防衛を専らとしてゐる。共産軍が福建省の海港廈門に進出し根據を占むるに至らば一大事であつて各方面の形

勢は大に憂慮されてゐる 第三軍団の主力は
西方省境附近に蟠踞してゐるのでこれに対し
中央軍第十一師(羅卓英) 第五十九師(張英)
並陳濟棠の命を受けた余漢謀は廣東軍
の第一軍及第一独立旅を率ひ主として贛州
附近近の地域に向ひ剿匪中である 又其一
部たる孔荷寵の部隊(当初独立師であつた
が目下第五軍と改稱し兵力約二万位はある
模様)は赤衛軍約四万及機關銃十余挺迫
撃砲数門を令せて鄂南陽新を中心とする
地域に蟠踞してゐるので中央では第五師の一
部を九江附近に留めて警備せしめてゐる

二湖北省方面

湖北省は元來共產軍第二軍団(主席賀龍政
治主任段德昌) 第四軍団(主席鄭行爲政
治主任曠繼勛)の活躍する地盤である
賀龍は漢口攻略の目的を以て兼任第二軍
(兵力約三万と稱せらる) 及段德昌部隊の第

六軍（兵力前者と強くと同様で其他馬隊二營
機突銃一連拳銃隊一連を有すとの事である）
其他赤衛隊（約三万）を以て四月中旬より行動
を起し應城京山天门附近に於て徐源泉軍（茅
四十一師第四十四師第四十八師独立茅二茅三旅）
に對し攻勢を採つたが地形險難の爲不成功に
終つたので主力も平漢線東方地区に移動し麻
城附近を根據地として許繼慎の第一軍と連
繫して南下を策してゐる其前衛戦は四月下
旬既に孝感縣下に於て開始せられた
又鄂東方面に於ては贛繼勳の第四軍団蟠踞
してゐるが此の部隊は八ヶ師の外ニテの遊撃隊
があつて合計兵力約十方を算し之れに加ふる
に赤衛軍約四方を加へて其實力は賀龍軍
に優る。又南下南部平漢線方面に策動し
てゐる別に鄂西方面には賀龍軍の一部
約三万が蟠踞し時々四川省方面にも出擾
し宣沙駐氏の四川軍が奔命に疲れてゐる

圖要勢態軍匪剿及軍產共支南

於二月下旬

省南河

250万



